

俳諧歌雙児百首

三





一

更衣

郊美三

葵七

郭云、廿昌山津七

早苗六
哭射九一
五月丙九
盧檍七
燭室七
寺十三
池九
故鄉十一
石九
温泉九
星九
雨云十
原十三
滝二十
湖二十三
海

能譜歌雙兒百首三之卷

撰者 四方歌垣真顥



更衣

波那細

らもとも又玄のかくもとあづけてゑゆめうれむるうの 真門
あゆむくも浦の女もねえをゆくはまくとさうわん 空 寂
裏微加花三
今日あくハお稚き御ゆゆくをもゆくを夏くとまや島人
あうざれりとば嬪むせすと下宿のきよどりをさざれ
絶うる麻の生たもくよ玄の翁のなうるくの　真 亀
みの鳥のあくもくは絶は絶めぐる又凡つもと絶のゑみ　全
まみのや金の弓ふ哉信かす。達布中純の後焉あり　来折
をとよとあむれりと焉すれまよし後志のむちとされ　庚上
白事ひあふくはくはくやはくの湯のあまゆと半田
まみの草をうむわがそぞりくと絶のものむかむ　戸塚
裏微加花三
絶もくや一の聲のあいのまふる歌ハアキをまふるゆる　真富貴
鸣海

裏微

あらゆるあだの人のよそへあきのれとおもひうると、真似子

開 塙

掲きふうごとハ皆あれやぶくんとあふううね

修保郎不むかわせとハ駆ひどくたるハ役のやうに

春 麻生

馬鹿の役ざとひをうそのやうなふはまほり

松代

花あみとあをかと都あかとあくともぬ庵の役

秀 全

寺院あらわう一物すが花の紅はうれきまわ

金 謙方

情うめと少佐とてまげとぬをもとづけ風

全 菓

ひよそとさう役ハ物せとて被ひたじめのまわづね

富津

様のぬれあをえよあとく衆野とあるあざとく

英 庄内

綴入をまとまとの中川ようちくらせるあもうせ

北方

綴ある野の力強きよ野細くすはまの里

川 雪

糸くさあがなあひがちはめりてと被とまぐでる

岡 部

むのあはあとしと綴とまぐのまよ又あれう

春 鳥

ウレシとあくとそくまられが文部とて其れうね

京 人

玉代正のむねあきとよりあはれ美名をすおハジとあく

人

まみとあぬまとあみのまきもとおハまよふくの席れ

水 戸

きとげあくわのれハ役うつまきとあせのをも

人

うせくと人ハのまどあきせつむぢよとおらう

人

眞廉縫とひく縫小役入一役をまのあきとあ

人

葛衣縫とひく縫かくとまもとひく縫をばれせ

人

目加花の縫めと情と人かく時のまよとおらの無

人

若初のあきせ小役のまう役をしろのえうへ

人

絹やくじ役うれいせんとせんとまのまくわく

人

白羊守のまよをすのをひくとおはりやくの唐

庄 内

目加花のまよをひく母のあけふとうぐるまはおぐせり

人

性きのうをもとハやあくとおとをもとをぬまの初風

真似子

野邊 亀成

升 雄 酒 家 壇 月 季 音 人 開 塙

さうの／＼まきの御ひき／＼うらのまきの社

市川

裏きぬとあがむとくをかくわちゆのあよ残せり

長岡

あわせばくとみづひくふ是もくう縁とくる麻のまき

全

あわせばくとみづひくふ是もくう縁とくる麻のまき

雨宮

花絵絵うかのれとく風車とやまの金ぐる室まゆ

石青

花絵絵うかのれとく風車とやまの金ぐる室まゆ

全

花絵絵うかのれとく風車とやまの金ぐる室まゆ

麻生

絵うかのれとく風車とやまの金ぐる室まゆ

松代

絵うかのれとく風車とやまの金ぐる室まゆ

柔折作

絵うかのれとく風車とやまの金ぐる室まゆ

大田原

絵うかのれとく風車とやまの金ぐる室まゆ

景

絵うかのれとく風車とやまの金ぐる室まゆ

大坂

絵うかのれとく風車とやまの金ぐる室まゆ

金

絵うかのれとく風車とやまの金ぐる室まゆ

真

絵うかのれとく風車とやまの金ぐる室まゆ

高柳

絵うかのれとく風車とやまの金ぐる室まゆ

千住

絵うかのれとく風車とやまの金ぐる室まゆ

熊

絵うかのれとく風車とやまの金ぐる室まゆ

歌沙丸

絵うかのれとく風車とやまの金ぐる室まゆ

庄内

絵うかのれとく風車とやまの金ぐる室まゆ

外

絵うかのれとく風車とやまの金ぐる室まゆ

全

絵うかのれとく風車とやまの金ぐる室まゆ

元

絵うかのれとく風車とやまの金ぐる室まゆ

会津

絵うかのれとく風車とやまの金ぐる室まゆ

千代生

絵うかのれとく風車とやまの金ぐる室まゆ

貴戸丸

絵うかのれとく風車とやまの金ぐる室まゆ

春彦

壇人住連丸好詰山依糖糖依山剛根石

春

花

真

真

真

真

真

真

真

真

真

真

真

真

真

真

真

真

真

真

真

真

狂くこそ身も心也とすやまむの事とすまむと云へば 茂九

海を岸の御みを経て里あるが近所なかつてもひだりう 全

ちをもの身を立てもぬにゆくままでおまかづうつごどる 照

おぐくとお望よかればとぞ身を立めかづらは能くう耶 青江 今井

あらわれば身そと身を立めうせんのとあやうくん 江尻 雪

萬葉もくとまの西をむげおれりつまじ風をうき 全

多被の身の下す初雲色うそくとくのえぐく 沈中野

様の身の底をうそ風の又もくはうと身をうそく 真咲

きのまごだえ身よとひる身をかきまもとれの萬葉 仙臺

身あひ女つまし乍りやと良脚よりの身のえらせとく 真根人

伊勢揚ぢうつまのう風をうればう身をうそく萬葉

花の身をうそとお引うそとおせばうそとおせばうそと 亀名古屋

鴨川よそして席しも身の身を證くきうげやうと 松本新田

船をまどかも身をうそくわれば身の身の身をもく 仙原茂

身の身をうそくわれば身の身の身をもく 延山

身の身をうそくわれば身の身の身をもく 仲友

身の身をうそくわれば身の身の身をもく 伸山形

身の身をうそくわれば身の身の身をもく 伸山形

波那細
卯月の日せ故のあはうとそれば薰べうつうつうと
裏波加花三
卯月の日せ故のあはうとそれば薰べうつうつうと

麻生

片倉

花

松

俊

臣

成

員

志久

正

大

盛

内

安志岡

仲

麻生

志久

草加

卯月の日せ故のあはうとそれば薰べうつうつうと

裏波加花三

卯月の日せ故のあはうとそれば薰べうつうつうと

拂人

今井

見積

岩城

上

真

酒

躬

秋

薄

墨

春

則

柔折

全

岩城

暖

九

哉

哉

住

水

祿津

全

真

就

金

文

税

松代

千

眞

剛

喜

樂

四
双三

邦彦の内ゆかすも根きるまこととせば根ぐちに割今 千代丸
そあひうのうのあらふはりてかののゆく坂崎 岩

庄内

春

笠松

眞

記

樹

倉

古

幸

人

守

吉田

元

樽

今井

三

甲舟

八

九

十

市川

常

桐

正

道

道

いわむのあらふはりてかののゆくまこととせば根ぐちに割今井
中世のどもづくばるはれどもだいへ事とてあはれ名古屋
かのひた風よし一葉の草木は波うるふまゆの叶の生え市川
裏微美
み機の風ひをあがむかかふれはすや自の材吉田
かもくまくねられはせんきへかかふれはすや自の材元
あがくまくねられはせんきへかかふれはすや自の材松代
かがくまくねられはせんきへかかふれはすや自の材八
かがくまくねられはせんきへかかふれはすや自の材甲舟
かがくまくねられはせんきへかかふれはすや自の材九
かがくまくねられはせんきへかかふれはすや自の材十
かがくまくねられはせんきへかかふれはすや自の材正
かがくまくねられはせんきへかかふれはすや自の材道

日妙如花

あらむくも娘の面葉とえゆが桂枝の口ふ等一和也

大坂
新庄
不美人

あらむくも娘の面葉とえゆが桂枝の口ふ等一和也

庄内
外

あらむくも娘の面葉とえゆが桂枝の口ふ等一和也

白川
岐阜
根

あらむくも娘の面葉とえゆが桂枝の口ふ等一和也

伊戸
駄山人

あらむくも娘の面葉とえゆが桂枝の口ふ等一和也

塘

あらむくも娘の面葉とえゆが桂枝の口ふ等一和也

直根

あらむくも娘の面葉とえゆが桂枝の口ふ等一和也

常恒

あらむくも娘の面葉とえゆが桂枝の口ふ等一和也

根

あらむくも娘の面葉とえゆが桂枝の口ふ等一和也

下館

あらむくも娘の面葉とえゆが桂枝の口ふ等一和也

印西

あらむくも娘の面葉とえゆが桂枝の口ふ等一和也

棟

あらむくも娘の面葉とえゆが桂枝の口ふ等一和也

月

藻葉とばきくへぐくえの口ふ等一和也

信神代
歌名

詠をきんじとせかうそを草葉とせかう根とつ和也

更耕
琴

前めのさのさわきとせかう根とせかう根とつ和也

若山
古

行ひとこれかくすとせかう根とせかう根とつ和也

麻生
歌志入

時遠とけのひふ外かとせかう根とつ和也

半田
真富貴

時遠とけのひふ外かとせかう根とつ和也

桑折
真

御衣のさのさわきとせかう根とせかう根とつ和也

稻荷山
新庄

御衣のさのさわきとせかう根とせかう根とつ和也

真

御衣のさのさわきとせかう根とせかう根とつ和也

全

御衣のさのさわきとせかう根とせかう根とつ和也

真

御衣のさのさわきとせかう根とせかう根とつ和也

富津
年子

御衣のさのさわきとせかう根とせかう根とつ和也

廣庭

白波とわづれつん裡をくまそもれでぬる御ほの地

豊俊

きとあたし無すか又せりかせりかせりの居まゆる御ほの地

二本坊

かのむきとめのまはりとおとまづ吸ひす干鰐とぞ黄る

福島三千春

ちあらかやうぐれすがゆせひはくまくかとみそん

藤沢里人

風を不くじとくわくうかやうかとまづすがゆせひはくまくかとみそん

八丁目春

やかの波うやぐのまかよ緑もみるまゆの牛

千佳能

御ほの日ふわく形魔の火は草とくすふくう拵あざする

千佳能

あるかやかのゆの雪ゆゑこれも雪ハ雪でよし

庄内春

かもの雪絛うむくみくま機の絨とそれば拵する

全二

白波と月ゆまとあれ世人の用ひゆゆへ拵のゆち

斐川

すくへかみにゆ里のやゆもとれにむらすむすか仙

桑折

驚くふかにゆ里もぬりえあくせめくたかゆの月

後藤

ゆゆかくつしら白化やゆとゆすとそのおなぐり

見

えゆくまごく鶴をとみれつらむ色のゆびの名

藤木耕

かゆと改のゆく見ゆつてむゆのゆくかくむゆ

三ツ井若水

御花ハモド一ねの花まゆ所漏東北と漏出の

川又金丸

御ゆのゆゆかみのゆかゆとゆくしゆわゆとゆのゆ

吉田元

ゆゆとゆくみのゆかゆとゆくしゆわゆとゆのゆ

新庄駄山人

ゆゆとゆくみのゆかゆとゆくしゆわゆとゆのゆ

今井見

ゆゆとゆくみのゆかゆとゆくしゆわゆとゆのゆ

信坂木

大要ゆとゆくみのゆかゆとゆくしゆわゆとゆのゆ

盛岡實

大要ゆとゆくみのゆかゆとゆくしゆわゆとゆのゆ

鳥取真

大要ゆとゆくみのゆかゆとゆくしゆわゆとゆのゆ

信坂木

前よりおくゆとゆくみのゆかゆとゆくしゆわゆとゆのゆ

静岡

前よりおくゆとゆくみのゆかゆとゆくしゆわゆとゆのゆ

実

前よりおくゆとゆくみのゆかゆとゆくしゆわゆとゆのゆ

長野

前よりおくゆとゆくみのゆかゆとゆくしゆわゆとゆのゆ

静岡

前よりおくゆとゆくみのゆかゆとゆくしゆわゆとゆのゆ

長野

前よりおくゆとゆくみのゆかゆとゆくしゆわゆとゆのゆ

長野

前よりおくゆとゆくみのゆかゆとゆくしゆわゆとゆのゆ

長野

九丸歌依由船舷雄風夷廣家真喜山形身延入松悟

天神林曾名吉屋

葉もむるの葉ハ秋の秋の月やうみにちうど見る
萬もあはれの叶せ因のまくやふ惜や思へ全
葉の叶めしのゆきうてか日やかれるかゆのを

真

叶もの叶はれうてめのめ脚つからてのねは
叶もはれまほいをかわすやめとくをやめをか
いのめのめうれば被むよとくやめとくをめられ
叶もはれまほいをかわすやめとくをやめをか
いのめのめうれば被むよとくやめとくをめられ

喜

叶もはれまほいをかわすやめとくをやめをか
いのめのめうれば被むよとくやめとくをめられ

松悟

もの叶はれまほいをかわすやめとくをやめをか
いのめのめうれば被むよとくやめとくをめられ

喜

もの叶はれまほいをかわすやめとくをやめをか
いのめのめうれば被むよとくやめとくをめられ

新馬

もの叶はれまほいをかわすやめとくをやめをか
いのめのめうれば被むよとくやめとくをめられ

喜

もの叶はれまほいをかわすやめとくをやめをか
いのめのめうれば被むよとくやめとくをめられ

喜

もの叶はれまほいをかわすやめとくをやめをか
いのめのめうれば被むよとくやめとくをめられ

喜

もの叶はれまほいをかわすやめとくをやめをか
いのめのめうれば被むよとくやめとくをめられ

喜

葵

印西百合九

長岡花人

喜

裏側のかわの枝代葵がまこれも二葉やくびりひのぐり

喜

九

里側のかわの枝代葵がまこれも二葉やくびりひのぐり

喜

九

扇あら別雷のあらひよけあらざしのや雲の山系

越河透

市川

葵あらそくと車ひく引けあらり物と車ス 大
因別あら葵あらけし車とあれと神と引る鄙人 真

岐阜

真

あらむかわみのせあらひよくおあらわあらとれ 今井
葵あらそくと車ひく引けあらり物と車ス 大

井

直

瀬のまく葵あらそくのれをあらひそく押せばし

真

瀬のまく葵あらそくのれをあらひそく押せばし

全

瀬のまく葵あらそくのれをあらひそく押せばし

名古屋

真

因縁あら似あらそくの葵あらがせばこれふ耳あがせ

真

の船の眼波は似あら葵あらそくのれをあらひそく

新泻

数

あらそくの葵あらそくのれをあらひそくあら川 濱近

真

雷降のあらの葵あらそくとえあらあらあらそく

真

亀

時鳥

波那細

財多の夢をあらすあの下へきくくらるれのこられまとも

大道

歌

双三八

郊むの雪のほのめゆる朝鶴の鳴ふあそびてかげ 鳴音

吉原

素

顔

財多の夢をあらすのあらかじめのあはぬるくまん 京
財多の夢をあらすのあらかじめのあはぬるくまん 真恵美

金

時をきけば等とあらそくあらそくあらそくあらそく

升

成

とくのうくあらそくとあらそくとあらそくとあらそく

松代

水

雄

葵あらそくとあらそくとあらそくとあらそく

仙臺

真根人

月の空くやくと夜の秋くらそもの秋わくふ脚くどう

良

國

時をきけば等とあらそくとあらそくとあらそく

片倉

常

かきのあらそくとあらそくとあらそくとあらそく

万喜馬

直

時をきけば等とあらそくとあらそくとあらそく

岩城

庄内

真

時をきけば等とあらそくとあらそくとあらそく

牛

九

を年少の頃は身に付けていたが、今は身に付けていない。二郎

吉原愛山丸

今が一もあくああび時もむきうらをさうへとす。

京保原隣

格の鳥をあつてむ時はもあどくまくおわろくか

吉原素

吹の風をね風ふ被れてもその鳴るかへて

名古屋真

度へみ野が野をさう繋せんとせんたつて時も

勝

度度の度もあよねを聞るがの歌も白づくと

全

度度の度もあよねを聞るがの歌も白づくと

成

度度の度もあよねを聞るがの歌も白づくと

全

度度の度もあよねを聞るがの歌も白づくと

成

度度の度もあよねを聞るがの歌も白づくと

全

度度の度もあよねを聞るがの歌も白づくと

成

度度の度もあよねを聞るがの歌も白づくと

吉田元照

度度の度もあよねを聞るがの歌も白づくと

島青海文

度度の度もあよねを聞るがの歌も白づくと

芳島人

度度の度もあよねを聞るがの歌も白づくと

万喜馬市川

度度の度もあよねを聞るがの歌も白づくと

大路常

度度の度もあよねを聞るがの歌も白づくと

小糸長岡起

度度の度もあよねを聞るがの歌も白づくと

岩城真

度度の度もあよねを聞るがの歌も白づくと

麻生九

度度の度もあよねを聞るがの歌も白づくと

歌志久友

空の間日暮ゆゑと移て橋をまよひうばを歸

吉田全

時をかきむるもあらひの夕日ゆゑやまを今やある

吉田真風

大いにせらせまるとう門をあわせ候やまふとやくし

全

時をまつ秋半をそ卯志の月をうるゝ鳥が年

新浦

ゆゑむとえの地との待ちこゑ傍よひぐくへ絶

今井

因をもつての事の解くあられぬ岩本をとす人

青梅

正徳聖節をあらねば因本をのどへゆふまく

芳

待人のたまへれどもかくとくはくらぬゆうと

健

行はせとくわく時をかく時をかくとくとくと

深見

旅宿根のうのきを記す時をかくとくとくとく

真

宿をかくわくとくとくとくとくとくとくとくとく

篠原

卯の日その約不時をかくとくとくとくとくとく

市川

時を耳新しき風をかげ情をかきせむとくとくとく

三ツ

行とびく君不歩きを時をかくとくとくとくとくとく

雪

うの朝を深くかきを残す君をかくとくとくとく

中野

かきの色に花色をわざと残す君をかくとくとくとく

眞咲

時をかくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

佐倉

きく人よ高きられての里をあらうとくとくとくとく

照

きの根すう今のとくとくとくとくとくとくとくとく

凹

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

名古屋

揚ひのとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

鬼

金のとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

森

まくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

音

時をかくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

人

まくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

内

時をかくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

正

等のまひるあらはれをばくはせとあく

空

寐

苦葉のシ付を初めへあらの葉のあらゆる

琴

足

卯木の葉の声が聞こえたりゆきとまく耳に難す

船

員

も難一とせのをじむまふうとよくなく

前

敵

志久

麻生川

時もくわゆるもハラキを手群のひも耳の極とされ

暗

青海

時もまくどあむせじんのき人あまうせくあま極とせ

松代

真

日加花二み取の指肝不思ひとせか絆か絆か絆か絆か絆か絆か絆

庄内

千

きくまをハ酒を手まく静まつておとせ音くまく時も

柔

晰

耳をとめ一のまこと見て落まつてくまく時も

市川

常

日加花一親の竹のを草をせうよどみとくく時も

三浦

豆

アホをときうさん教訓葉勢の腰ぐくなぐる

氣仙沼

龍

徳ききのておもせまくかくもとあづけくやく部公

初

成

男の日とくのと時もくまく不思ハラキ角びく

音

道

時も初のまくかくは時もく神よくまくの角る

丸

祝

立の袖ハ孤かだ唐もととあくやまく時も

前

嘉川

日付もくわくやくかくと時もく神よく時も

吉田

芭

立の袖からぬほくよ時もくやくと時もく神よく

草

闇

立の袖もくわくやくやくと時もく神よく時もく

長岡

山

立の袖もくわくやくやくと時もく神よく時もく

名古屋

糸

立の袖もくわくやくやくと時もく神よく時もく

駿府

市川

常

立の袖もくわくやくやくと時もく神よく時もく

河

入

道

立の袖もくわくやくやくと時もく神よく時もく

清方

空

立の袖もくわくやくやくと時もく神よく時もく

船

員

立の袖もくわくやくやくと時もく神よく時もく

志久

成

立の袖もくわくやくやくと時もく神よく時もく

麻生川

前

敵

立の袖もくわくやくやくと時もく神よく時もく

青海

志久

立の袖もくわくやくやくと時もく神よく時もく

松代

真

立の袖もくわくやくやくと時もく神よく時もく

庄内

千

麻生

粒

成

時も新文章をうけておもひ出でる有りの事
碑文の間もあらうとぬる在りかねの事
このれの信文の里は時もさくばつゆきの事
アシハシカレやくも付もあらむ時もあら
物もからびてからね根もあらぬ退の事
絶びて事も法びて時も根もあらぬ事
かりやうよどきもか歴代を絶てもあらぬ事
御の功徳も時も天もあらぬ事
薦まうやうとゆくがちのあれどことぬけ
うふて教き一聲をばれ不都うちて御部云
時も日もあらびてほきの頃とすホスモカヒ
きく氣不仕合せばん時もうつむ切のひりと
はねばまざわせばだ時もあらぬ不目とばらしてま
かうえうりへまざわ人とも訓ぬ時もうや
まとものつむきうらかひて待ててあく時も
耳もとれ氣も人の事もとまじめどもうけ
せまじめかげども吃る時も日もあれてせ
き者又かくもせんをうふ様をかくまじめ
獨根ふ二かくもせんをうふ様をかくまじめ
糸根やまたばくお浮きをてお見せめらぬ事
まれう年とくわへて御の事も初はうぎれ
度の達をつむぎてはるひくとくかくまじめ
時もアラムとゆくもとゆくのつと日本とく
ゆるがくとくにけはまづれより根席れども
月のあもまゆるとかくまぎんの處るかあそて根
月のあもまゆるとかくまぎんの處るかあそて根
高畠 菊松 宮崎 十字街 本守 佳年
岡山 高畠 菊松 宮崎 十字街 本守 佳年
佐原 八重垣 岸住 宇都宮 持

石出

支

時をかくらへふるゝれんねのほへり樹とつゝ人

盛岡

森

佐木のまゝくひそく時をのむに樹のまゝくそくがくすきく

金

坂木

知木のまゝくひそく時をのむに樹のまゝくそくがくすきく

全

来

時をのむに樹のまゝくそくがくすきく時をのむに樹のまゝくそくがくすきく

京

山形

時をのむに樹のまゝくそくがくすきく時をのむに樹のまゝくそくがくすきく

全

美力

時をのむに樹のまゝくそくがくすきく時をのむに樹のまゝくそくがくすきく

全

真恵美

時をのむに樹のまゝくそくがくすきく時をのむに樹のまゝくそくがくすきく

小平

丸

時をのむに樹のまゝくそくがくすきく時をのむに樹のまゝくそくがくすきく

全

草

時をのむに樹のまゝくそくがくすきく時をのむに樹のまゝくそくがくすきく

名古屋

淵

時をのむに樹のまゝくそくがくすきく時をのむに樹のまゝくそくがくすきく

全

眞勝

時をのむに樹のまゝくそくがくすきく時をのむに樹のまゝくそくがくすきく

秋

津

時をのむに樹のまゝくそくがくすきく時をのむに樹のまゝくそくがくすきく

松本新田

盛

時をのむに樹のまゝくそくがくすきく時をのむに樹のまゝくそくがくすきく

全

古呂頼

時をのむに樹のまゝくそくがくすきく時をのむに樹のまゝくそくがくすきく

直根

彦

時をのむに樹のまゝくそくがくすきく時をのむに樹のまゝくそくがくすきく

吉原

山

時をのむに樹のまゝくそくがくすきく時をのむに樹のまゝくそくがくすきく

真

山

時をのむに樹のまゝくそくがくすきく時をのむに樹のまゝくそくがくすきく

全

市住

時をのむに樹のまゝくそくがくすきく時をのむに樹のまゝくそくがくすきく

真國

市

時をのむに樹のまゝくそくがくすきく時をのむに樹のまゝくそくがくすきく

大道

許牛

時をのむに樹のまゝくそくがくすきく時をのむに樹のまゝくそくがくすきく

佐倉

万賀馬

時をのむに樹のまゝくそくがくすきく時をのむに樹のまゝくそくがくすきく

千住

朱員

時をのむに樹のまゝくそくがくすきく時をのむに樹のまゝくそくがくすきく

枝成

俊葛

時をのむに樹のまゝくそくがくすきく時をのむに樹のまゝくそくがくすきく

在京

金

時をのむに樹のまゝくそくがくすきく時をのむに樹のまゝくそくがくすきく

在在京

佐倉

村のあらひをくはきはうからかの御事と云ふ事と まへて 真龜
時もさへ姫と云ふ事と云ふ事とまへて有る事 支成

三百日の薦金より時もさへとまへてとまへての井
大さかの井の事と云ふ事とまへてとまへてとまへての四と 錐田
と云ふ事とまへてと云ふ事と云ふ事とまへてと云ふ事 善直
時もさへの和ちうへ海事と云ふ事とまへてとまへての八
人歌志久

麻生豆

岩城暖

九

菖蒲

波那細櫻酒愛 謂方
そのゆゑに梅子の色の如きの菖蒲は
波那細 季基金
子の菖蒲と云ふ事と云ふ事とまへての菖蒲は
稚かくの菖蒲と云ふ事と云ふ事とまへての菖蒲は 仙臺
裏微加花三 賀
代舞 うは繁示ち力ハ舞リのぐもハ舞ふ事とぞ
伎やむの菖蒲と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事 金
か一十やもあん極形不取の菖蒲の根と金をす
りぬ多月のわからぬ代の竹根不取ハ省かり也 水哉
野邊 亀成

四三十六

裏微加花三
かく菖蒲ふ花の候と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
琴かくの根と引ひて菖蒲ますが根のつるとまへて島人 呑安
つる根と引ひて根のつるとまへて島人 人
菖蒲かくは根の根の根と菖蒲もとまへて群子
ち根行踏つとよとを度みて度みて菖蒲也 采折
根の根の根とよとを度みて度みて菖蒲也 仙基
度みて度みて菖蒲の根の根とよとを度みて度みて葉
葉 二 武
度みて度みて菖蒲の根の根の根とよとを度みて度みて葉 不美人
度みて度みて菖蒲の根の根の根とよとを度みて度みて葉 一 馬
年かくもとととととととととととととととととととと
とととととととととととととととととととととととととと
ととととととととととととととととととととととととと
とととととととととととととととととととととととと
ととととととととととととととととととととととと
ととととととととととととととととととととととと
とととととととととととととととととととととと
とととととととととととととととととととととと
とととととととととととととととととととととと
ととととととととととととととととととととと
ととととととととととととととととととととと
ととととととととととととととととととととと
とととととととととととととととととととと
とととととととととととととととととととと
とととととととととととととととととととと
ととととととととととととととととととと
ととととととととととととととととと
ととととととととととととととととと
とととととととととととととととと
ととととととととととととととと
ととととととととととととととと
とととととととととととととと
とととととととととととととと
ととととととととととととと
ととととととととととととと
とととととととととととと
とととととととととととと
とととととととととととと
ととととととととととと
ととととととととととと
ととととととととととと
とととととととととと
とととととととととと
ととととととととと
ととととととととと
とととととととと
とととととととと

下巻
河鳥近

甲府熊
青海井
喜代住見

きハ柳根ハ行脚と云す所の底の菖蒲れて草す

草加早丸

「かどりバ菖蒲と秋もぬれにふく葉も毒とあす」
日妙加花

麻生歌志久

美の山の度りやねえまきを穿うかせむる菖蒲

市川駿宣常道

あややや菖蒲の身の毛かへあざと美のかくらざさん
菖蒲池をくとあひれてやむすとひどめをくわ

市川富津年子

まくゆよへぬ菖蒲も浮遊も根は沈つて
日妙加花

市川駿宣俊道

朝陽より身の底の身を根の根を根をふゑとくけり
朝あさくち宿と花菖蒲島をまくすけと風をまく

市川蓬生

土立立ちむとくとくぬ所にまよふと菖蒲水をくさる古派

市川大路

引のあく一根のひやう子柳めひとむどうか拂ん厚人

小糸岩城人

葉湯させなとて泥がれ菖蒲風とむづくらんがすへる柔折

市川真酒躬

ひをかく背の身ハ入ねの達のうねりもせくじくいん

市川真武

引の東一石を走渡川水みも拂まひむくさうきり

新庄柴

じゆくと身をむじりとうすあさうりと身をまく

仙臺俊也

事をハ乞うせ身の縁を刈りてかくと人菖蒲

大田原春

時おりも簷下影移はれゆきすこしをまくすの菖蒲ハ量

諏方量

刈の身とぞ近隣入民とも身若の身ゆすくらむ子

氣仙沼貢

身作とぞ身菖蒲をかむをやかの身むきて近す

小町讓

身身不き身を力あわゆ手交ふ身や虎の虎網

福島三千春

破きく身影移も身ハ身の身菖蒲と身不き身外り

豊秋

が身の身が身と身あらむ身ハ身身身身身身身身

市川真

身身身身身身身身身身身身身身身身身身身身

駿府逸

身身身身身身身身身身身身身身身身身身身身

新庄繁

身身身身身身身身身身身身身身身身身身身身

琴富貴

事をハクミテ其の後をも刈つてゆくと、菖蒲_{カキツバタ}。

大田原春

文

時よりとも管が形勢不れやうにて、其の後_{カキツバタ}ハ

諏訪量

刈の後とも近隣入出ても見苦の風氣不やいを承る。

氣仙沼貢

是作ごとて、近隣菖蒲_{カキツバタ}をもむわづの蟲もさへ近づ

小町讓

多の邪不吉_{カキツバタ}をもあわせ草木交々草也虎の虎跡

福島三千春

破れ_{カキツバタ}の形勢も残ハ第_{カキツバタ}の菖蒲_{カキツバタ}と無不吉_{カキツバタ}なり。

市川豊秋

が女子のがすと生れあひ_{カキツバタ}ハ日向もあすれ菖蒲_{カキツバタ}す也。

小見川真浦

草子_{カキツバタ}不也ぐかく、育んせひ不也_{カキツバタ}の草子_{カキツバタ}の草_{カキツバタ}菖蒲_{カキツバタ}。

一関

良業ハアカサギーとゆのうが甘くそきのよな菖蒲_{カキツバタ}。

今駿府直

祚_{カキツバタ}十柄以上_{カキツバタ}の菖蒲_{カキツバタ}とバも_{カキツバタ}も不_{カキツバタ}せり_{カキツバタ}。

親

推_{カキツバタ}事_{カキツバタ}治_{カキツバタ}後_{カキツバタ}と_{カキツバタ}福_{カキツバタ}そし菖蒲_{カキツバタ}の_{カキツバタ}好_{カキツバタ}め_{カキツバタ}。

新庄繁直

空_{カキツバタ}一_{カキツバタ}海_{カキツバタ}水_{カキツバタ}和_{カキツバタ}アリ_{カキツバタ}ま_{カキツバタ}と_{カキツバタ}室_{カキツバタ}の_{カキツバタ}あ_{カキツバタ}不_{カキツバタ}。

甲府二

岸_{カキツバタ}の_{カキツバタ}ま_{カキツバタ}の_{カキツバタ}ら_{カキツバタ}ま_{カキツバタ}と_{カキツバタ}室_{カキツバタ}の_{カキツバタ}あ_{カキツバタ}不_{カキツバタ}。

小町

朝不善_{カキツバタ}菖蒲_{カキツバタ}の風_{カキツバタ}ハ_{カキツバタ}有_{カキツバタ}因_{カキツバタ}の_{カキツバタ}よ_{カキツバタ}の_{カキツバタ}世_{カキツバタ}より_{カキツバタ}安_{カキツバタ}心_{カキツバタ}也。

琴富貴

路成

市川

ひよそくおとせぬかくわざああくくじまをまかねが岡大
萬能寺のかほどのゆきあむすねくぞうけの派手生さん

朝あさひまきべしるに車をうちうつての萬能

岡部坂

二階ある朝あさひまきべしるに車をうちうつての萬能

岐阜上田

ゆくがまくまきべしるに車をうちうつての萬能

吉原名古屋

萬能を朝あさひまきべしるに車をうちうつての萬能

兼井丸改

魚のぬうだりゆうせりひのうまをうつての萬能

真頭

まことた不續うれの若萬能一人あらそゑあせくのひ

真頭

萬能を引ぬく更不處まちで後のとくも五輪とくに

内直

後はのびあゆきとくに附はうづれとくに人ものとくに

復春

花うみかづな附不絆れとくにまよあわる萬能浦

真種

花うみかづな附不絆れとくにまよあわる萬能浦

本輝

坂志岡仲盛

四三十八

早苗

裏微加花三岩川のゆくまきびとむ葉ふみの葉をま直角のや面

庄内

五萬能竹ハ每圓累乳の紋をすと後へをまく桂

真、龜

第六うのじぬえの御用を桂うめのゆくまきびとまうせり

出羽住

せね金一徳すすのあやとゆと徳ひくの萬能

群子

裏微加花二あくづくゆくまきびと桂うめの桂

内匠

風とよぐゆくまきびと桂うめの桂うめの桂

松俊

五萬能味よむれくふ世間まで遠むくふ桂

真門

三萬能うりゆくまきびと桂うめの桂うめの桂

市川

経のさうり鳥のまくとあとどうすとぞむるより女

萩月

十代やもくのれぬ経せんゆく桂うめの桂

津御

ちゆくの萬能とく頃の初冬ハその因もとゆふと萬能

新庄

湯のまくとくふ汗のまくとくのまくとくの萬能

真

成守

青梅
喜代住

小山田すすめとて少林へ巴宿の事のみとある都人
引ひまゆまハ獨木橋を往来して橋より女 水戸
田植まむら女の中より主役王後御のひも飛山より
文神の里のすすめとておればまつる物と思ひく 式
鳥居のくろよも里へ達西不懶と風とて植より女
目加花二郎とえまのそく鷹寝毛とてすすめと植文 松
月加花二郎とえまのそく鷹寝毛とてすすめと植文 名古屋
五分女の頃からあるあるすすめとて持ひて田植毛とて
玉鷹女のいと田植毛とてあらびとてまくかじむす
足利の山田ハキモトアヘンと音をひきつてすすめと植文 長岡
日出の山田のむのむの年とぞばゆのふかれといひをせし 市川
蓬の山田植毛とぞばゆれと門田をもとと渡運引渡せ 真
幸の山田植毛とぞばゆれと搖りとて全利のすすめと植文 岩城
花子と樹木うらうらすすめと植毛とぞせしと 松代
今井 露 九

玉子女とすの種やとのすすめとぞとて植毛と死田 読方
とすの種やとのすすめとぞとて植毛と死田 吳鷦
とすの種やとのすすめとぞとて植毛と死田 全
とすの種やとのすすめとぞとて植毛と死田 真
とすの種やとのすすめとぞとて植毛と死田 石
とすの種やとのすすめとぞとて植毛と死田 奥越川
とすの種やとのすすめとぞとて植毛と死田 関
とすの種やとのすすめとぞとて植毛と死田 秋
とすの種やとのすすめとぞとて植毛と死田 山形
とすの種やとのすすめとぞとて植毛と死田 市川
とすの種やとのすすめとぞとて植毛と死田 真
とすの種やとのすすめとぞとて植毛と死田 藤沢
とすの種やとのすすめとぞとて植毛と死田 美
とすの種やとのすすめとぞとて植毛と死田 春
とすの種やとのすすめとぞとて植毛と死田 庄内
とすの種やとのすすめとぞとて植毛と死田 会津
とすの種やとのすすめとぞとて植毛と死田 益
とすの種やとのすすめとぞとて植毛と死田 福鳴
とすの種やとのすすめとぞとて植毛と死田 罗九
とすの種やとのすすめとぞとて植毛と死田 長洲

甲府

御すとひのゆふ晴ぐとくのあはせど栗のきぬひく 市川 八九十
山田ふとたかく移すも事とこれもむくがみの移す 三成

伊戸 石出

多種や思ふとお忙とてのうつてはれと移すましも

盛岡 金

えくすくおとを立房とそりバ母田やさう尚の餘す

片倉 旗

移すとせまかは因とわからんをまくせけよよかの

曾根 藏

まくせかは因とわからんをまくせけよよかの

川名 真

まくせかは因とわからんをまくせけよよかの

新宿 光

まくせかは因とわからんをまくせけよよかの

琴

まくせかは因とわからんをまくせけよよかの

足 貞

まくせかは因とわからんをまくせけよよかの

吹

まくせかは因とわからんをまくせけよよかの

義 镇

まくせかは因とわからんをまくせけよよかの

庄内 黒

まくせかは因とわからんをまくせけよよかの

長岡 貢

照射

波那細

秋ハラミヘオモト一茎桂ハシヒトアソビテテイタク。全福丸
日田小寺ハモレド野邊寺有中合せ玉藻とぞり 千住美豆保
娘の女ハかくを海へまづる者自て植るよめ 醉仙樓

半田貴丸

東城加花三

名古屋真

岐阜小人

印西百合九

椎微加花二

火車アノ朝の御子野人之糧つきてまづ日本茶を以て

岩城

大祭のととのひやハ人あぐりとめの歳秋月がるるを。

真酒躬

やまけを夜のゆをゆき、若の命は新とゆすあ

豊上

若葉と仰とやがくかくすれ花の身のれまわる

水戸

歌とさわの大事すまむお見舞と、ゆのひととゆまん

庄内

年とみたてと、廣ひえ後へれてまほとあるをあくでよん

元

あらもとすうう火事は松のむらゆう若さうとつぬ

新庄

あらもとすうう火事は松のむらゆう若さうとつぬ

紫

あらもとすうう火事は松のむらゆう若さうとつぬ

名古屋

あらもとすうう火事は松のむらゆう若さうとつぬ

美

あらもとすうう火事は松のむらゆう若さうとつぬ

端

あらもとすうう火事は松のむらゆう若さうとつぬ

空

あらもとすうう火事は松のむらゆう若さうとつぬ

麻

あらもとすうう火事は松のむらゆう若さうとつぬ

樹

あらもとすうう火事は松のむらゆう若さうとつぬ

季

あらもとすうう火事は松のむらゆう若さうとつぬ

也

あらもとすうう火事は松のむらゆう若さうとつぬ

嘉年子

あらもとすうう火事は松のむらゆう若さうとつぬ

人

あらもとすうう火事は松のむらゆう若さうとつぬ

成

あらもとすうう火事は松のむらゆう若さうとつぬ

人

あらもとすうう火事は松のむらゆう若さうとつぬ

起

あらもとすうう火事は松のむらゆう若さうとつぬ

也

五月 雨

改那細

人

林裏微加花ニ
多聞のよきわざとあれてあらまつてはやくかきりやう
候ぬがちうまうの蝶の毛根の毛をもひくわゆる

新庄花人

の時く高生ハ生じん祇生までまじの風とあしすれぬ
よきを自か経くみやうをせば至を秋あきの霜の霜
葉のよきの向く壁の月のそれよりまの秋の秋

下錦

成

よきを自か経くみやうをせば至を秋あきの霜の霜
葉のよきの向く壁の月のそれよりまの秋の秋

麻生

志久

葉のよきの向く壁の月のそれよりまの秋の秋

富津松

支

葉のよきの向く壁の月のそれよりまの秋の秋

水戸秋

良

葉のよきの向く壁の月のそれよりまの秋の秋

岐阜時

春

葉のよきの向く壁の月のそれよりまの秋の秋

盛岡駄山人

良

葉のよきの向く壁の月のそれよりまの秋の秋

實栗

成

葉のよきの向く壁の月のそれよりまの秋の秋

枝成

門

葉のよきの向く壁の月のそれよりまの秋の秋

室田真門

蓬生

葉のよきの向く壁の月のそれよりまの秋の秋

佐原春

廣樹

葉のよきの向く壁の月のそれよりまの秋の秋

佐原常

則

葉のよきの向く壁の月のそれよりまの秋の秋

佐原常

直

葉のよきの向く壁の月のそれよりまの秋の秋

佐原常

哉

葉のよきの向く壁の月のそれよりまの秋の秋

佐原常

則

佐原常

則

日の光アシタムヘアリトモ有ルの事ニモナリムがのゆ
有ルもの候の様小姓と稱て號のれどレハ馬柳
本川少々川ハト漂くるを於の事ニ於有ル水
有ルもの也ニモナリトニ輪の形モトサシテ一也ナカニ
有ルモハ圓の體ハあれども猶屈屈極め天の御み
有ルの扱ハ行ハシニシテ之ノ耳うミモウ
考の御ハシトナリトナリ且モ首へ入リトモアラカツル
有ルモ不思議わくともモテ済ムキタリトナリ
有ルのあささギト何處の主席小源る多のは爲
さシムシテ御の御ナリトナリトセシモナリ
有ルモ不思議わく人の經度どテナシの是モセキ
未代族の御モトモケル有ルモナリトナリ
曇^{ムカシ}トモナリトナリト行モナリテアモト梅のゆき
日加花^{ヒルガハ}トモ牛水^{ウシミズ}トモ大井川^{オイカワ}トモ有^リの事

岐阜^{岐阜}薄^薄墨^墨
名古屋^{名古屋}駄^駄山^山人^人
吉原^{吉原}素^素
松本^{松本}新田^{新田}勝^勝田^田
上田^{上田}兼^兼上^上
名古屋^{名古屋}支^支支^支
長^長道^道磨^磨延^延人^人
全^全廣^廣盛^盛顛^顛金^金

双三二十三

岐阜弘器東夷成高市河全室田垣廣直住九次
名古屋真門成高市河全室田垣廣直住九次
吉原素松本新田勝田全吉原素松本新田勝田全
上田兼上全吉原素松本新田勝田全吉原素松本新田勝田全
名古屋支支全吉原素松本新田勝田全吉原素松本新田勝田全
長道磨延人全吉原素松本新田勝田全吉原素松本新田勝田全
岐阜駄山人全吉原素松本新田勝田全吉原素松本新田勝田全
薄墨^{柔折}駄山人^{岐阜}水戸^{岐阜}長洲^{岐阜}真剛^{岐阜}

ひのじとくわうかねのハジマリれやとはまつる

岩城

春則

日暮の夜のまへはいとくすら車へまよひてゆめのん

真酒弟

おほきのまをうかうけ因仕女ハ此にとまぬ日をうへん

麻生漏

おほきとはびづれとやまのまへもとしむ動がうへん

栗折

おほきのまをうかうけ因仕女ハ此にとまぬ日をうへん

神津

おほきのまをうかうけ因仕女ハ此にとまぬ日をうへん

水真

おほきのまをうかうけ因仕女ハ此にとまぬ日をうへん

金一

おほきのまをうかうけ因仕女ハ此にとまぬ日をうへん

三浦若

おほきのまをうかうけ因仕女ハ此にとまぬ日をうへん

春田

おほきのまをうかうけ因仕女ハ此にとまぬ日をうへん

春藤

おほきのまをうかうけ因仕女ハ此にとまぬ日をうへん

庄内

おほきのまをうかうけ因仕女ハ此にとまぬ日をうへん

真鏡

おほきのまをうかうけ因仕女ハ此にとまぬ日をうへん

全訓

おほきのまをうかうけ因仕女ハ此にとまぬ日をうへん

文鶴

おほきのまをうかうけ因仕女ハ此にとまぬ日をうへん

費川

おほきのまをうかうけ因仕女ハ此にとまぬ日をうへん

大金

おほきのまをうかうけ因仕女ハ此にとまぬ日をうへん

市川

おほきのまをうかうけ因仕女ハ此にとまぬ日をうへん

藤木

おほきのまをうかうけ因仕女ハ此にとまぬ日をうへん

吉原

おほきのまをうかうけ因仕女ハ此にとまぬ日をうへん

水戸

おほきのまをうかうけ因仕女ハ此にとまぬ日をうへん

今井

守

人規

枝石丸色文根作住馬文哉

西風の下見ハヤシめどりの葉木萬葉てびれと向島の名

甲府

市川

大路

水

茅とよかすもみゆきの葉木萬葉てびれと向島の名

山

近

西風の下見ハヤシめどりの葉木萬葉てびれと向島の名

大

考

茅とよかすもみゆきの葉木萬葉てびれと向島の名

市川

大路

水

茅とよかすもみゆきの葉木萬葉てびれと向島の名

山

近

茅とよかすもみゆきの葉木萬葉てびれと向島の名

大

考

茅とよかすもみゆきの葉木萬葉てびれと向島の名

市川

大路

水

柏原の萬葉よせやく柏薄わておとくの音あひ

甲府

栗法師

萬葉よせやく柏薄わておとくの音あひ

山

近

萬葉よせやく柏薄わておとくの音あひ

大

考

萬葉よせやく柏薄わておとくの音あひ

市川

大路

水

萬葉よせやく柏薄わておとくの音あひ

山

近

萬葉よせやく柏薄わておとくの音あひ

大

考

萬葉よせやく柏薄わておとくの音あひ

市川

大路

水

福の樹ふそくかさうてやまをのきもあふるあん
香りの匂ひ氣の神めの内情ふりこみ

桑折

春米

真廣

香りの木す葉をさむらひててよみ

最上

繁留

福の下せとあづらへくあへ人の神のあどもる

真門

福の下せとあづらへくあへ人の神のあどもる

群子

福の下せとあづらへくあへ人の神のあどもる

花

福の下せとあづらへくあへ人の神のあどもる

駿府

福の下せとあづらへくあへ人の神のあどもる

長岡

福の下せとあづらへくあへ人の神のあどもる

岩城

福の下せとあづらへくあへ人の神のあどもる

富

福の下せとあづらへくあへ人の神のあどもる

栗原

福の下せとあづらへくあへ人の神のあどもる

庄内

福の下せとあづらへくあへ人の神のあどもる

出羽住

福の下せとあづらへくあへ人の神のあどもる

丸

福の下せとあづらへくあへ人の神のあどもる

櫛入

福の下せとあづらへくあへ人の神のあどもる

空

福の下せとあづらへくあへ人の神のあどもる

櫛路

福の下せとあづらへくあへ人の神のあどもる

新庄

福の下せとあづらへくあへ人の神のあどもる

壽

福の下せとあづらへくあへ人の神のあどもる

庄内

福の下せとあづらへくあへ人の神のあどもる

庄外

蟹

福の下せとあづらへくあへ人の神のあどもる

人

福の下せとあづらへくあへ人の神のあどもる

天神林

福の下せとあづらへくあへ人の神のあどもる

馬

福の下せとあづらへくあへ人の神のあどもる

駿府

福の下せとあづらへくあへ人の神のあどもる

直

福の下せとあづらへくあへ人の神のあどもる

甲府

福の下せとあづらへくあへ人の神のあどもる

文

福の下せとあづらへくあへ人の神のあどもる

葛也哉

青也哉

星川や天の河をよまれるハキトの力の色あらへん

麻生凹

裏機

星のせとさるとりへあまをよりよりとすふをあつて

歌志久

星かくとく一きとぞうとすのひくらをゆて 野邊神田

眞似子

そめのねつとも水のことをあがめばよしとすのひくらをゆて

椎村眞

ねのひくら若大のれふやまひハテモきみ一きあらを

葉宣

星川をのまふおおむちのればりもまゆのい

駿府直

花のひくらおおむちのればりもまゆのい

岡崎真

花のひくらおおむちのればりもまゆのい

今町城

花のひくらおおむちのればりもまゆのい

馬生暖

花のひくらおおむちのればりもまゆのい

松代千

花のひくらおおむちのればりもまゆのい

稻荷山

花のひくらおおむちのればりもまゆのい

大坂金

花のひくらおおむちのればりもまゆのい

糖

双三二十七

あらひのあらひの花の行はうとあらひの花とこぶくと 三浦豆 氣仙沼

追はせくのあらひの花の行はうとあらひの花とこぶくと 三浦豆 氣仙沼

千佳歌

あらひのあらひの花の行はうとあらひの花とこぶくと 三浦豆 氣仙沼

歌志久

あらひのあらひの花の行はうとあらひの花とこぶくと 三浦豆 氣仙沼

庄内吾

あらひのあらひの花の行はうとあらひの花とこぶくと 三浦豆 氣仙沼

甲府三

あらひのあらひの花の行はうとあらひの花とこぶくと 三浦豆 氣仙沼

小町

あらひのあらひの花の行はうとあらひの花とこぶくと 三浦豆 氣仙沼

琴富貴

あらひのあらひの花の行はうとあらひの花とこぶくと 三浦豆 気仙沼

守

あらひのあらひの花の行はうとあらひの花とこぶくと 三浦豆 気仙沼

剛

あらひのあらひの花の行はうとあらひの花とこぶくと 三浦豆 気仙沼

守

あらひのあらひの花の行はうとあらひの花とこぶくと 三浦豆 気仙沼

美

あらひのあらひの花の行はうとあらひの花とこぶくと 三浦豆 気仙沼

下總

あらひのあらひの花の行はうとあらひの花とこぶくと 三浦豆 気仙沼

香久美

あらひのあらひの花の行はうとあらひの花とこぶくと 三浦豆 気仙沼

鳥

あらひのあらひの花の行はうとあらひの花とこぶくと 三浦豆 気仙沼

河

萬葉歌集卷第一と又並せりのサト花もとが
唐國

唐や化へて風かへてかんぬかへてかの風を風と
善

宿のあ風の風かへれてやぐの風ハ風を風もとが
直

鳥宿の風の風ハ風かへてやぐの風と
真

風かへてやぐの風ハ風かへてやぐの風と
國

風かへてやぐの風ハ風かへてやぐの風と
鳥

風かへてやぐの風ハ風かへてやぐの風と
住

風かへてやぐの風ハ風かへてやぐの風と
新庄

風かへてやぐの風ハ風かへてやぐの風と
方

風かへてやぐの風ハ風かへてやぐの風と
住

風かへてやぐの風ハ風かへてやぐの風と
新

風かへてやぐの風ハ風かへてやぐの風と
漫

風かへてやぐの風ハ風かへてやぐの風と
信

風かへてやぐの風ハ風かへてやぐの風と
木

風かへてやぐの風ハ風かへてやぐの風と
琴

風かへてやぐの風ハ風かへてやぐの風と
吹

風かへてやぐの風ハ風かへてやぐの風と
路

風かへてやぐの風ハ風かへてやぐの風と
網

風かへてやぐの風ハ風かへてやぐの風と
記

風かへてやぐの風ハ風かへてやぐの風と
俊

風かへてやぐの風ハ風かへてやぐの風と
歌

風かへてやぐの風ハ風かへてやぐの風と
志

風かへてやぐの風ハ風かへてやぐの風と
久

馬好盛

庄内一

喜

水戸松宿

二

佐原央

氣仙沼

藤次

仙基

大坂

稻荷山

梅

泉

百

有

謙方

通

羽安好

好通

好安羽

歌志久

麻生垣

花垣

前稿

暗

歌

経

俊

歌志久

三十八

常

国

庄

常

春成雀 岩川白川 挿

全

吉岡壽

岐阜駄山人

芳美

青姫

真根文

照道

吉岡壽

緒の至れにつむ表は爐が申せばさうれあまめり也
院の手を流の源もくおれあれりもい今 我山形里
蓮葉がすゑくそれどもひつねつみのねのせうれ
ゆきふれのれはくのまのくとくも牛巻うふ
弟引ふれの裏のじゆそくあつてくどくも晒也 犬臣
蟲瘧がまのまのせうれも也それくもあらのれ
あまめくわくのくとくもひくももんじてくりん 真國良村
也

寺

裏被加花三

やなはすくのれどもいと廻はせまやばの茅庵

岩城

真酒躬

むらのこどもうれすみのくのくのくとつせよかせ秋

市川

常道

あるの動化のれと花のまの白きとくに大波音うね

大坂

梅好

うるをくわくのうれとくに大波音うねとくに大波音うね

長岡

磯住

名良村

月 蔌

彦

院在だよもととあく連とも桂もととめづれ
書かきの教へあらど向へのうひのかるもとゆく山も
まめくはくぬわくもとゆくもとゆくもと桂軍くもとゆく寺

諏方

を平野原をのほのせやくさむは桂軍もとゆく山も

もとゆくがくま桂原を能いんとびて遠慶をもとゆく桂原

川入

車を力車よ七車やう車もとゆく山もとゆく山も

甲府

車あふまうれくもとゆく山もとゆく山も

久

車あふまうれくもとゆく山もとゆく山も

全

車あふまうれくもとゆく山もとゆく山も

繁

車あふまうれくもとゆく山もとゆく山も

美

車あふまうれくもとゆく山もとゆく山も

淵

車あふまうれくもとゆく山もとゆく山も

市

車あふまうれくもとゆく山もとゆく山も

住

車あふまうれくもとゆく山もとゆく山も

九

車あふまうれくもとゆく山もとゆく山も

次

車あふまうれくもとゆく山もとゆく山も

二本坊

車あふまうれくもとゆく山もとゆく山も

坊

車あふまうれくもとゆく山もとゆく山も

家

車あふまうれくもとゆく山もとゆく山も

住

車あふまうれくもとゆく山もとゆく山も

住

車あふまうれくもとゆく山もとゆく山も

住

車あふまうれくもとゆく山もとゆく山も

住

車あふまうれくもとゆく山もとゆく山も

住

車あふまうれくもとゆく山もとゆく山も

住

車あふまうれくもとゆく山もとゆく山も

寺

岩城 岩城
真酒躬 真酒躬

仙臺

島道

大坂

梅好

春

時

春

樹

龜

牛

音

鳴

盛岡

黒鳴

真鄉

常

寂

傳ふるもあはれやかひもんゆゑの様はひ
魯のくまのまつりとひきのいの地文

枝成

波那田

滝

駿河

直

志ハシ秋ハソモトミモリナシモトキ、恩あはのたれ

裏機加在第一モモヨハ被のミモリガ身を也が身をもてる事アリの附

岩城長

古

老翁の風のみふハ風のミモリモ有る、身をもてる事アリの附

前萬市川暗

枝

事アリの白婆と云ひ附はれある恩と耳がモリモリモ

春常

支

若りの入エモリモリと藏がえん經緯をもとカリの附

大坂長岡

支

山巒の多アリモリと藏がえん經緯をもとカリの附

津市川量

支

のゆ人ハ恩をもてる事アリの附の附の白翁もモリモリモ

春常

支

物アリモリモリモリの附の附の白翁もモリモリモリ

金誠方

支

物アリモリモリモリの附の附の白翁もモリモリモリ

金誠方

支

卷三十一

樹道記人成

研ニテ越テヒと見若角ニモアギテ度ニ附の白翁

采折金

金

シムのきハ身アリモリ遊と身モリ身アリモリ不セマヘテテ産モリノ附

釣田豆

支

隔アリモリの井とテ身アリモリテテテテテテテテテテテテテテ

牧布地万吉又馬

支

附の井とテ身アリモリと身アリモリと身アリモリと身アリモリと身アリモリ

松本新田長盛

支

附の井とテ身アリモリと身アリモリと身アリモリと身アリモリと身アリモリ

印西舟

支

今カね屋アリモリと身アリモリと身アリモリと身アリモリ

常恒

支

耳アリモリの井とテ身アリモリと身アリモリと身アリモリ

青梅芳

支

目加在二目加在第一モモヨハ被のミモリガ身を也が身をもてる事アリの附

仁熊

支

身アリモリの井とテ身アリモリと身アリモリと身アリモリ

鳥取真

支

因傷アリモリの井とテ身アリモリと身アリモリと身アリモリ

常豊

支

あひのきハ身アリモリと身アリモリと身アリモリと身アリモリと身アリモリと身アリモリの附

安原常

支

三毛のきアリモリと身アリモリと身アリモリと身アリモリと身アリモリの附

常豊

支

若山

岩城

眞酒躬

眞玉

眞堺

眞津

眞富

眞飯

眞時

眞影

眞琴

眞安

眞安

眞安

眞星

眞子

眞歌沙丸

眞秋

眞穗

眞雀

眞喜代

眞直

眞成

眞菊

眞支

眞國

眞成

眞丹

眞吹

眞九

眞傳

此のものもさうやうと度量をもとて書せり所
あらむれ秋の紅葉の如く不深とへゆる向ふの所
通のやうなまのとがては見る所やこゝに仕事
かまひまやものと織合を取へ経る所をもせの所
つねをもするのとがては見る所やこゝに仕事
取りもするかと見思ふ所を辟きの如きの所
旁よりの所をもせはひきが放走してハ風やくさん
うの所の内なかと人をえん所の所を被ふるもと
をあまへ敷の所不食せくもの所を色どくさん
ほひうねりまか一ととあらもあらもよどび所
ゆとも人のあまくあらじの所の所の所の所を
きこの天の井の機房うちまれて居る所を
かの所底をもとの所をもて奉はつてゆく所

真郷
 支成
 善直
 全

裕山傳ふされまつた事は甚だしくて人をもつて
 着ふと先を立ち去るが水角あくまくはの間ちく
 ひの人うごこちにかづかまつてはなはでひきこすりの駄
 らの浦とよのむらをとてはなむるすの駄の島は
 向あととくらむとさりの浦は浦の浦とくわざで後じゆゑ
 うぶればおみやえればかんむちの浦の浦の浦
 義三のむのむのむとおほせ

原

波那細
 フル波セダキシテ久松の野天のあまめを御秀和の所
 裏微加花三
 裏微加花二
 紫士の所と白井ととては今年は稗荷や御秀和の所
 裏微
 生毛江のまき内づまが月のメロヒトセカハツナガスカの所
 吹く萩や振く庭をかめあぐらとせせ一義其せの所
 ねのかじとおハカセで有ぬ不なりわゆるを結翁の所
 高成

空寂
 本羅
 野辺
 苔成
 岩城
 真酒躬

広大のはうくもとバナガのじよま風と度き度差也 廣庭
 等あゆみをものやれ時もわがよとさつて敷にと
 りとてのをのむのひのひの移ふ移ふ移ふのあとなじく御会 白川
 永光也ハもととおれぬ度を感まも内のきわみとひどし 真直
 ほのまつての移ふ移ふとそびう数せりく御秀せの所 凹
 おぞめの涙の移す壁壁のやく移すおれむ白土 真種
 おもとまくほのうのうかくとおせあくれ松原 神田
 目秋加花一
 目秋加花二
 えととく秋のうるみと風をもとめがく、よる名すと御群子
 そととくはそのあとを換ておもむけひとよきのをもる
 徒歩からて廣大の神むれり因のいとおまがせば山形 通
 人のわざとがくと御秀せの名はみだかめくわくさん
 あるふこと廣大と定めておまへづとくと御秀せの事 藤沢
 通

春則
 酒盛
 真直
 真種
 歌志文
 麻生明
 有安澄

社國萬事一往と云ふ事あるべき事無く是れを以ての事 真 魚

湖

裏微加花二

真門

不往とあらまの海と島主との事とねへり。良材
路

市川

路の海をうると因のものねづかずかはてくがゆきの
う波の心とやみハ越えさんむの心とあるの海面 全

氣仙沼

このうの心とやみハ越えさんむの心とあるの海面 美都井

市川

アヌカム仰りエミハ薩色の海をくわまでハ富モギテ先

赤津

アヌカム仰りエミハ薩色の海をくわまでハ富モギテ先

真琴

アヌカム仰りエミハ薩色の海をくわまでハ富モギテ先

水哉

アヌカム仰りエミハ薩色の海をくわまでハ富モギテ先

鳴音

アヌカム仰りエミハ薩色の海をくわまでハ富モギテ先

高澄

アヌカム仰りエミハ薩色の海をくわまでハ富モギテ先

真龜

アヌカム仰りエミハ薩色の海をくわまでハ富モギテ先

成豆

アヌカム仰りエミハ薩色の海をくわまでハ富モギテ先

新庄

アヌカム仰りエミハ薩色の海をくわまでハ富モギテ先

真柴

アヌカム仰りエミハ薩色の海をくわまでハ富モギテ先

成豆

真 魚

波那袖

石

。あめの女のものかわらわがことわざれぬる

真亀

裏襷加花三

桑折

市川

御

襷加花二

嘉年子

戸塚

空

天人の船

常道

まくわらわ

桑折

市川

御

天人の船

嘉年子

戸塚

空

天人の船

常道

市川

御

天人の船

嘉年子

戸塚

空

天人の船

桑折

市川

御

天人の船

嘉年子

戸塚

空

弓へ算をもすはば代あられひばを根へとおとすをじん

金

文

経のまやか使ふるも人の私どば承くあとぞもとと
碑つゝく碑とありて不つてやをのめくはまよハサム

吉田道守改

新庄恒

繁樹

拂白ぶりとれりにとく人のまつた時ふきう

甲府

壽

幸せじわらひやびつまめがぬせびの波多の川
石和川

岡部

泉

法越のあかくまくちゆふ處とみのれ國ふうか
孟川のふは湯のせをしてまよ若の云とてるるか
慈禧の頃の慈禧年不ハに無事か御のむとくとく
波のとくうれわらひく性のから無事と樂かせゆ中
あゆくのほひあれどり無事かひとれる耶をのまふ

千住

真

川名

酒

空
世よさればかをまづかゝるの聲をへゆくなりと
慈禧のうきとくとくの事勢ぶりでうだらくふの波ね
あゆくのほひあれどり無事かひとれる耶をのまふ
慈禧の頃の慈禧年不ハに無事か御のむとくとく
波のとくうれわらひく性のから無事と樂かせゆ中
あゆくのほひあれどり無事かひとれる耶をのまふ

美豆保

真

種

宿

寐

成

常

和

醒

裏微加花三

温泉

玉桜首ふれたの山河不二也アツれ、病の度と見

岩城

真酒躬

伊豫の湯の湯初の數の少すがくと角波う湯をせばる
裏微加栗ニ
右もひきのゆはるのはあそ後葉うきの湯ハされ

佐原

金

采折

伊豫の湯の湯初の数の少すがくと角波う湯をせばるの
伊豫の湯の湯初の数の少すがくと角波う湯をせばるの

名古屋

鬼

文

伊豫の湯の湯初の数の少すがくと角波う湯をせばるの
伊豫の湯の湯初の数の少すがくと角波う湯をせばるの

全

暖

影

伊豫の湯の湯初の数の少すがくと角波う湯をせばるの
伊豫の湯の湯初の数の少すがくと角波う湯をせばるの

松本

見

隼

伊豫の湯の湯初の数の少すがくと角波う湯をせばるの
伊豫の湯の湯初の数の少すがくと角波う湯をせばるの

川崎

飯

金

伊豫の湯の湯初の数の少すがくと角波う湯をせばるの
伊豫の湯の湯初の数の少すがくと角波う湯をせばるの

新庄

真

松

伊豫の湯の湯初の数の少すがくと角波う湯をせばるの
伊豫の湯の湯初の数の少すがくと角波う湯をせばるの

史

管

年

よせのくちもくまきうかのまかひをきりと
日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとく

庄内

成

うどくむはりあらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとく
日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとくとく

下卷

まん丸

日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとくとく
日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとくとく

仁熊河

街

日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとくとく
日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとくとく

松代義

信

日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとくとく
日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとくとく

仙臺島

鳥村

日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとくとく
日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとくとく

大坂早

庄内

日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとくとく
日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとくとく

木三成

雀道

日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとくとく
日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとくとく

新庄美舟

信

日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとくとく
日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとくとく

牛

人

日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとくとく
日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとくとく

繁猿

成

日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとくとく
日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとくとく

山形玉

街

日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとくとく
日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとくとく

牛田豆

成

日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとくとく
日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとくとく

岐阜美都井

内匠

日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとくとく
日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとくとく

水戸長崎

辰

日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとくとく
日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとくとく

名古屋安人

辰

日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとくとく
日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとくとく

富津真

辰

日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとくとく
日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとくとく

氣仙沼美都井

辰

日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとくとく
日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとくとく

甲府春

辰

雲

日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとくとく
日秋か花一
あらじて夕景のえふ井のゆきとくとくとくとくとく

水戸長崎

辰

裏被

群子

駿府

方

葉持人也

真上

琴

朱都官

仙基

庄内外

唐

金一

裏被

小屋商

骏府直

新庄色

竹ヶ岡道

新瀬

駿府直

骏府直

新庄色

新瀬

駿府直

規

古音

新庄色

古音

駿府直

人

葉持人也

新庄色

新庄色

駿府直

犬山

日をもれ秋風がハサビ松葉の吹きのむすびをたゞり
ひづきとさんとまほあひの風が吹きゆきやかとのそ
風と人をせんじわくふらうのハモふざつる
海をかみ、日暮へくはやむとひよりえん
つぞく、度くわくらんとまふまつらのとつむし
萬の國をましまで、銀をまくとれくさの様かくえ
タミの所を待く日暮れかやが朝陽をめうむ

琴 真
頭 空
寐 千
金 晴
輝 俊
本 順
顔 真



能譜歌雙凡百首三之卷終

